

第2回自治・安全部会 まとめ

日 時：平成21年9月9日（水）10：00～11：30

場 所：上京区役所2階大会議室

出席者：立木部会長，大串委員，小野委員，絹川委員，倉辻委員，小林委員，藤林委員，
山田委員

次 第

1. 開催趣旨説明
2. 第1回部会報告
3. 施策及び事業について
4. まとめ
5. その他

議 事

3. 施策及び事業について

【自治と地域力編】

- ・ 各種団体をつなぐ方がいないと上手く行かないということが言われているが、実際にはどうか。
- ・ つなぎ役の存在は絶対に必要だが、その場合、どういう方が、どのような経緯で輩出されるかが重要となる。上京では色々な活動をされているのでその下地はできていると思う。
- ・ 施策2の2つ目の事業と関連するが、上京区は、地縁はしっかりしているが、NPOなど志縁との連携という部分でコーディネーターの存在は必要だろう。
- ・ 人づくりを横断的にしようという場合、上京区は各種団体がしっかりしているので、それぞれで育成しており、難しい面がある。コーディネーターを担うというのは、よほど実力のある方でなければ担えない。
- ・ 交流については、地域での活動促進は謳ってあるが、区全体として集まれるような場があってもよいと思っている。
- ・ コーディネーターについては、全くのよそ者は駄目で、地域のなかで二重、三重の役割を担っている方がなられるケースが、他の自治体でも共通している。
- ・ 施策2の2つ目の事業において、コーディネーターについて触れておく。
- ・ コーディネーターの養成と言うのは難しいだろう。発掘するという方が近いかもしれない。あるいは活用や協働という表現で言い表したいと思う。
- ・ 100人委員会では「まちのほっときません隊」ということで、既に活躍されている方にスポットをあてることを考えている。
- ・ 声掛け・挨拶は子どもに限らず、全員で取り組んでよいことではないか。

【まちの安全安心編】

- ・ 普段やっていることが難しく書かれているようにしか見えない。
- ・ 活動のレベルが非常に高いことがその要因の一つ。京都市は地域の取組が高いレベルにある。

- ・ 円卓会議の結果からは、その取組があまり理解されていない結果となっている。地域での取組は、非常に数多くされている。
- ・ 地域における高いレベルでの取組は、上京区の強みである。そのことが表現されている方がよい。
- ・ 最近では、拍子木を持って火の用心を回ろうということを行っている。コミュニケーションのきっかけにもなるし、防犯にもつながる。
- ・ ハザードマップなども作成したが、マップは作成している時が一番よくて、その後は古くなるだけだ。できることから少しずつ取り組みたい。
- ・ 安心・安全のまちづくりの裾野を広げることが重要ではないか。
- ・ 率先して地域における防犯の取組をバックアップするといういい方があるとよい。
- ・ 防犯の件で、子ども110番に取り組んでいるが、その成果については一度も報告を受けたことがない。どのような情報があったのか整理する必要があるのではないか。
- ・ 自主防災会の活動で、小学4年生を対象にバケツリレーの訓練を続けている。子ども達へ教えることも重要である。
- ・ 災害時要支援者については、先ほど議論にあったコーディネーターの存在が欠かせない。各学区に配置しないと機能しないのではないか。
- ・ コーディネーターというと他所からのイメージが強いが、地域で既に活躍されている方というイメージだと思う。
- ・ 3つのキーワードで表現を改めてはどうか。1つ目に「広げる」、意味としては安全・安心に関わる人の輪を広げるということ、2つ目に「高める」、意味としてはマップ作成を通じて防災意識を高める、3つ目に「深める」、意味としては救急に対する知識を獲得して理解を深めていくということだ。
- ・ 表現については、分かりやすくしたい。

その他

- ・ NPO や学生による円卓会議の際には、自主防災会の学生部のメンバーも加えてほしい。